

平成21年（2009年）3月20日発行

学位取得おめでとう 卒業生に贈る言葉

ご卒業おめでとう。この春、諸君は、社会のさまざまな場面に、技術を携えて羽ばたいて行かれます。きっと、期待と不安とが交差していることでしょう。生産の現場、開発の現場、設計の現場、あるいは販売、保守の現場と、技術を活かす場は多様であることでしょう。

晴れて学位を取得された学部並びに大学院の諸君、まことにめでとございます。諸君は、いよいよ社会という荒波の中へ出て行かれることになりました。諸君が足を踏み入れる社会は、いま日進月歩で変化、変革のスピードを加速しつつあります。したがって、このスピードを常に意識して、追いつき・追い越さなければなりません。そのためには、日夜、研

長い技術者としての人生を考えれば、最初の現場が大学時代に自分の学んできた分野と同じであることが必ずしもラッキーとは言いかねません。全く畑違いの仕事をやられて、はじめは戸惑って、自分にとっての新鮮な手法に興味がいったり、その分野の専門家から、「今度のねらい通りの技術分野・事業部門に配属されるかもしれないし、そうでないかもしれない。



学長 柳澤 章

新人は目のつけどころがユニークだと評価されたりするなかで、力を発揮していく例は珍しいことではないからです。それが技術の面白いところだともいえます。

成長する技術者とは、新しい知識・知見を、好き嫌いなく貪欲に吸収していく雑食家である

鑽を怠らないように心がけ、行動することが不可欠です。

最近では、社会は日本という枠の中だけでなく、先進国、新興国を含めてグローバルな状況で刻々と変化を続けております。我々は常にこの変化に積極的、かつ革新的に対応していかなければなりません。



理事長 大川陽康

諸君がこれから挑戦する社会の仕事には、肉体的労働と頭脳労働があります。いうまでもなく諸君のほとんどは頭脳労働に携わることになると思います。頭脳労働に必要なのは、膨大な知識に加えて、その中から新しく価値の高い情報を生み出す知恵が要求されます。知識を高め

ことでしよう。自分の領域外のことに近寄るのを恐れるタイプになるのではなく、技術が細分化している今日、隣を覗き見する、つまみ食いセンスを身につけることが大切です。

例えば企業での製品作りにおいて、自分が携わるのはある一部分です。その前後の工程でど

体感して得た技術で、

大きく成長するエンジニアに

のような技術が使われ、自分の受け持つ工程に何が期待されているのか、理解できていれば、もっとこうしたら、より良い製品に仕上げるができるだろうと、思いが至るからです。

さらには、技術の知識だけでなく、人々が、社会が、何を求めているのかを観察し続ける態

度、そして何を提供できるのかを自らに問う姿勢が、伸びる技術者の資質といえるのではないのでしょうか。

今日、工業分野は環境負荷低減の技術を抜きにしては考えられ

ません。通信分野、建築分野においても全く同様です。自分が携わっているものが、生産さ

れ、利用・消費され、廃棄・再利用されるプロセス、そこに投入される資源・エネルギーを地球規模で見渡し、環境負荷の低減に貢献することが求められています。昨秋より世界経済は失速し、日本においても厳しい状況にあります。環境負荷低減は省資源、省コストと重なり合

い、その技術ニーズは衰えないだろうと考えられます。ところで、日本語の「もったいない」という言葉があります。「ムダづかいをしなさい、大切にしろ」という意味とともに、「価値あるものが、その価値が正当に生かされるべき」という意味が込められているのではないのでしょうか。

諸君は日本工業大学で、それぞれの分野の技術を知識としてだけでなく、実習、実験、手を使ったものづくりを通して、技術を体感して習得し、エンジニアとしての素養を養ってきた人材です。その素養を大きな力として、製品作りの素材、建築資材・素材の価値、技術の価値を十分に活かす技術者として活躍していただきたいと思ひます。

君たちがそれぞれの場所であいつを活かさなければもったいない」と言われる人材となることを期待します。諸君の健闘を祈ります。

日々の研鑽で

グローバルな変化に対応

報グローバル化と加速化に対応

できなければ、われわれの仕事や生活は「敗北」するかもしれないのです。私たちは、常にグローバルな相手と戦って勝ち続けなければなりません。そうした心構えと行動を続けることが必要なのです。

一時期「アメリカがクシャミ

専門職大学院だより MOT大学院に求められる 「能力」とは

MOT（技術経営）協議会検討するプロジェクトが進める団体がある。MOT行中である。このプロジェクトには一般企業のMOT教育関係者も参加しているという組織であり、わが専門職大学院もそのメンバーになっている。目下、この協議会では、加盟校各校が提供しているMOT教育の根幹をなすべきカリキュラム（コア・カリキュラム）を策定すべきかどうか、策定したらどのような能力や特性である「コンピ

要は、大学院が学生に教

え、習得させるべき「能力」の問題である。ここでいう能力には、「読み書きの能力」のような「リテラシー」もあれば、「成果を挙げうる能力や特性」である「コンピ

テンシー」もある。企業関係者は、全員が大企業の社員であるが、彼らが様に強調するのは、前者のリテラシーである。大学は受講者にこの種の能力

言わば基礎能力を授けてくれれば十分であり、コンピテンシーについては企業内で教育する、教育すべきであるという。

しかし、わが専門職大学院の場合には、いささか事情が異なる。学生の殆どは

平成
二十年度
卒業生一覽
3月20日付
確定者

早期卒業

【機械工学科】

機械工学科

電気電子工学科

建築学科

3月20日 学位記授与式に
学長賞受賞者を表彰

●平成20年度 「学長賞(学部生・大学院生)」受賞者

学部	学科／専攻名	氏 名	出身校
	機械工学科		
	電気電子工学科		
	建築学科		
	システム工学科		
	情報工学科		
大学院	機械工学専攻		
	建築学専攻		
	情報工学専攻		

この賞は各学科で学業成績が特に優れ、かつ人物が優秀と認められた学部生と学術研究業績が特に顕著と認められた大学院生に贈られる。平成20年度は学部生15名と博士前期課程の院生3名が受賞。3月20日の学位記授与式で表彰された。

システム工学科

情報工学科

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

【機械工学専攻】

【情報工学専攻】

【システム工学専攻】

●博士後期課程
課程博士

【システム工学専攻】

【情報工学専攻】

論文博士

【建築学専攻】

【電気工学専攻】

【システム工学専攻】

【建築学専攻】

◎宮代キャンパス学位記授与式
3月20日(金)

大学院技術経営研究科修了生
(予定)

●専門職学位課程

【技術経営専攻】

◎神田キャンパス学位記授与式
3月21日(土)

博士号取得

おめでと〜っざいます

課程博士

論文博士

2/28(土)特色GPシンポジウム 工房教育プログラムの成果報告と新たな展開



第3部 学長と学生によるトークセッション

文科省特色GP「7つの工房」による力強いメッセージ。第1部では、大阪電気通信大学の養成体験の実工学教育「4年間の成果を報告し次の展開を」のテーマで講演をいただいた。同大学の教育プログラム（19年度特色GP）は、本学にとっても魅力的で、ご自身の機械工学研究や大工運営と関連づけてのお話しは示唆に富んでいた。

第2部では、工房教育推進本部長黒津高行が、7工房から17工房へと成長した経過を報告し、教育研究推進室長波多野純は教育改革委員会の巡視結果を踏まえて、自己評価を行った。休憩時間には、パネルや作品を持ち込んだブースが設けられ、工房の楽しさと熱気が肌で感じられた。

第3部では、古典機で鳥人間コンテストに出場したなど学生が夢を語り、学長からは、工房の楽しさを新入生に伝える機会を設けるべきとの示唆があった。他大学からの参加者もあり、立ち見が出る盛況であった。

埼玉信金と 産学連携協定



学生会館で行われた調印式

本学は平成21年1月28日、埼玉縣信用金庫と産学連携協定を締結した。本学が金融機関と連携協定を結ぶのは4つ目。中小企業向けの経済・経営フォーラム開催のほか、取引先企業との共同研究、地域社会への技術・人材育成支援等を行っていく考えである。

山口君が聴覚障がい学生支援に
対する取り組みで奨励賞受賞

昨年10月26日、京都で開催された第4回日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワークのシンポジウムにおいて、情報工学科磯野春雄研究室所属の山口淳平君（山形県立長井工業高校出身）が「日本

学内合同企業説明会

今年度は2月23日から3月3日にかけて207社の参加を得て本館において開催された。昨秋以降、金融危



東京地下鉄など、鉄道会社の人気が高い

当日は、神田朱未さんと広橋涼さんのトークショーとお笑いコンビ「お先にどうぞ」によるお笑いライブが行われた。アニメ「CLANNAD」のキャラクターとして活躍している神田さんと広橋さんの二人が、新成人へ熱いエールを送った。

人事異動

- ◆【定年退職】（3月31日付）
 - ◆松野建一 教授（大学院技術経営研究科）
 - ◆小原重信 教授（大学院技術経営研究科）
 - ◆酒井茂紀 教授（機械工学科）
 - ◆小倉勝教授（機械工学科）
 - ◆長谷川嗣彦 准教授（共通教育系）
- ◆泰野愈士 講師（電気電子工学科）
- ◆堀口光敏 講師（電気電子工学科）
- ◆【退職】（3月31日付）
 - ◆船橋昭一 教授（生涯学習センター）
 - ◆鈴木康之 教授（留学生別科）
- ◆星野坦之 教授（システム工学科）／出張先：中国（12／15）／目的：2008年度中国

国外出張

- ◆鈴木康之 教授（留学生別科）
- ◆星野坦之 教授（システム工学科）／出張先：中国（12／15）／目的：2008年度中国

天満宮例祭



神宮から玉串を受け取る学長

平成21年度日本工業大学天満宮例祭が2月28日（土）社前において厳粛に挙行された。

満開の梅の香りさわやかに匂う境内で、田川崇敬会長以下、大川理事長、柳澤学長、神原宮代町長らが参列。学生諸君のより一層の学業向上と繁栄を祈念した。

編集後記

◆本年は世相と心理の有様が大変な経済状況を背景に、いつもの年よりもさらに暗い感じがする。この厳しい現実の中で、学生諸君は、学士・修士・博士課程を修め、それぞれの進路を主体的に選択し、さらに一歩を踏み出すことに心からのおめでと〜と敬意を表する。節目というより岐路といったほうが正しいのだろうが、将来のこととは誰にもわからないのだから、複数の中から選択した道に、工学の知識という武器を持ち、あとは自信と謙虚さと努力を持って進むしかない。あの選択でなく違った選択であったならと、あとで後悔するのだけはやめよう。過去はタイムマシンでしか遡れないし、君が過ごした時間だから、本当におめでと〜。（F）

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。

学生代表と柳澤学長の 第7回懇親昼食会



（前列左から）梅崎部長、工藤君、柳澤学長
（後列左から）長田君、國貞君、谷口君、及川君、菅野君、田尻君

1月21日（水）、7回目となる懇親昼食会が開催された。学生代表として学生会の委員長が7名、大学側からは柳澤学長と梅崎学支援助部長が出席。双方の自己紹介に始まり、東門バイク置き場出入口に関する要望や、体育科目の選択制に関する話題などについて、和やかな雰囲気で見聞交換が行われた。

LCセンターでエベレスト写真展



写真のほか、藤森氏が実際に使用した登山用具も展示

本学のコンサルタントである藤森幹仁氏が、昨年5月、69歳でエベレスト登頂に挑戦した際の記録写真展を、LCセンターの展示コーナーにて開催した。世界5番目の高峻で標高8848mの登頂に見事に成功した写真は、学内外の見学者に感動を与えている。

キャンパス整備速報



ドコモのアンテナ局 新しくなった枕木

①屋上防水工事
施設の計画保全の一環でE21、27棟、9号館の防水工事を実施した。年度内にE10棟の屋根改修も完了見込み。防水の維持は建物にとって最も基本的なことであり、今後も計画的に進めていく。

②NTTドコモアンテナ局設置工事
W10棟（建築学科棟）の屋上にNTTドコモ携帯のアンテナ局を設置した。バッテリーも搭載し、短時間ではあるが非常時の通信手段としても利用可能なように配慮されている。

③SL線路の枕木取替修理
博物館に展示されている蒸気機関車の軌道敷の老朽化に伴い、枕木の取替工事を行った。この軌道敷は平成5年に敷設したものであり、コンクリート製の枕木も考えたが、やはり蒸気機関車とのマッチングを考慮して木製とした。

④給水管敷設工事（幹線のループ化）
平成5年からのキャンパスリニューアルの一環として、給水幹線が整備されたが、給水圧の減少を改善する為にバイパス配管でループ化する工事を行った。これにより水圧低下による影響をなくす事と緊急漏水事故時におけるバイパス給水が可能となり、他への影響を最小限に止める事が可能となった。